

専門科目【基盤看護】

授業科目名	基盤看護特論Ⅱ <i>Advanced Studies in Fundamentals of Nursing II</i>			担当教員	本田 多美枝、田村 やよひ 柳井 圭子、倉岡 有美子 阿部 オリエ
開講年次	1年後期	セメスター	2	時間数(単位数)	30(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義	使用教室	
授業の目的	激動する社会を見据え、看護管理、看護教育、看護倫理の各分野において中核的役割を担うために必要となる概念、諸理論、方法論などについて検討し、各分野における専門性の発展のための方策を探究する。				
到達目標	<p>〈看護管理分野〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理学の研究領域・研究方法の特徴を説明できる 2. 安全かつ円滑に看護を実践するために、最善かつ現実的な看護マネジメントに必要な諸理論・方法論、法制度について学び、解決すべき課題について分析できる 3. 先行研究の分析を通して、看護管理学の専門性発展のための新たな方策を探究できる <p>〈看護教育分野〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学教育の研究領域・研究方法の特徴を説明できる 2. 看護専門職の育成を目指した看護学教育を行うために必要となる概念や諸理論・方法論、教育制度等について学び、解決すべき課題について分析できる 3. 先行研究の分析を通して、看護学教育の専門性発展のための新たな方策を探究できる <p>〈看護倫理分野〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理学の研究領域・研究方法の特徴を説明できる 2. 看護実践の場において倫理的感受性を高め、倫理的判断を下すために必要となる諸理論・方法論、倫理規範について学び、解決すべき課題について分析できる 3. 先行研究の分析を通して、看護倫理学の発展のための新たな方策を探究できる 				
授業計画	<p>〈看護管理分野〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 看護管理学の研究領域・研究方法の特徴を捉える (倉岡、田村) 2回 組織運営に関する諸理論を概観し、看護管理実践上の課題を議論する (倉岡、田村) 3回 リーダーシップに関する諸理論を概観し、看護管理実践上の課題を議論する (倉岡、田村) 4回 管理者の能力(コンピテンシー)に関する諸理論を概観し、実践上の課題を議論する① (倉岡、田村) 5回 管理者の能力(コンピテンシー)に関する諸理論を概観し、実践上の課題を議論する② (倉岡、田村) 6回 看護管理者の能力開発に関する諸理論を概観し、実践上の課題を議論する (倉岡、田村) 7回 組織倫理に関する諸理論を概観し、実践上の課題を議論する (倉岡、田村) 8回 医療・看護に関する法制度を概観し、看護実践上の課題を議論する (田村、倉岡) 9回 看護労働の場に生じている法的諸問題について検討する (田村、倉岡) 10回 看護管理に関する研究論文の抄読とクリティック (倉岡、田村) 11回 看護管理に関する研究論文の抄読とクリティック (倉岡、田村) 12回 看護管理に関する研究論文の抄読とクリティック (倉岡、田村) 13回 看護管理に関する研究論文の抄読とクリティック (倉岡、田村) 14回 看護管理に関する研究論文の抄読とクリティック (倉岡、田村) 15回 看護管理学の今日的課題と変革に向けた提案 (倉岡、田村) <p>〈看護教育分野〉</p> <ol style="list-style-type: none"> 1回 看護学教育の目的、研究領域・研究方法の特徴 (本田、阿部) 2回 看護学教育の歴史的変遷と今日的課題 (阿部、本田) 3回 日本の看護教育制度の特徴と課題 (本田、阿部) 4回 看護教育課程(カリキュラム)編成の考え方 (本田、阿部) 5回 臨地実習指導論 (阿部、本田) 6回 教師の専門性と看護教師教育の課題 (本田、阿部) 7回 看護職のキャリア開発の現状と課題 (本田、阿部) 				

	<p>8回 看護学教育における研究の動向 (本田、阿部)</p> <p>9回 看護学生を対象とした研究論文の抄読とクリティーク (本田、阿部)</p> <p>10回 看護教員を対象とした研究論文の抄読とクリティーク (本田、阿部)</p> <p>11回 実習指導者を対象とした研究論文の抄読とクリティーク (本田、阿部)</p> <p>12回 新人看護師を対象とした研究論文の抄読とクリティーク (本田、阿部)</p> <p>13回 中堅看護師を対象とした研究論文の抄読とクリティーク (本田、阿部)</p> <p>14回 実地指導者・教育担当者を対象とした研究論文の抄読とクリティーク (本田、阿部)</p> <p>15回 看護学教育の今日的課題と変革に向けた提案 (本田、阿部)</p> <p>〈看護倫理分野〉</p> <p>1回 看護倫理の基本的考え方、研究領域について (柳井)</p> <p>2回 日本の看護倫理学発展過程と今日的課題 (柳井)</p> <p>3回 看護現場における他の専門職者との関係から生じる課題 (柳井)</p> <p>4回 患者の権利とアドボケイト (柳井)</p> <p>5回 看護専門職と倫理規範について (柳井)</p> <p>6回 看護実践現場で直面する法的問題 (柳井)</p> <p>7回 正義の倫理とケアの倫理 (柳井)</p> <p>8回 法的思考と判例評釈 (柳井)</p> <p>9回 他国の看護倫理問題との比較検討 (柳井)</p> <p>10回 看護倫理に関する研究論文の抄読とクリティーク (柳井)</p> <p>11回 看護倫理に関する研究論文の抄読とクリティーク事例分析 (柳井)</p> <p>12回 看護倫理に関する研究論文の抄読とクリティーク事例分析 (柳井)</p> <p>13回 看護倫理に関する研究論文の抄読とクリティーク事例分析 (柳井)</p> <p>14回 看護倫理に関する研究論文の抄読とクリティーク事例分析 (柳井)</p> <p>15回 看護倫理学の今日的課題の克服に向けた提案 (柳井)</p>
学習方法	<p>各分野に分かれて授業を行う。</p> <p>〈看護管理〉 教員による講義および院生によるプレゼンテーションとディスカッションにて進める。</p> <p>〈看護教育〉 授業は、教員による講義および院生によるプレゼンテーションとディスカッションにて進める。プレゼンテーション担当の院生は、前週までに教員および院生に必読文献を提示すること、各院生は事前学習を行い、授業に参加することが求められる。</p> <p>〈看護倫理〉 授業は、教員による講義と受講者によるプレゼンテーション・ディスカッションにて進める。</p>
オフィスアワー	<p>金曜日の昼休み、もしくはメールにてアポイントをとってください。</p> <p>t-honda@jrckicn.ac.jp (本田)、y-tamura@jrckicn.ac.jp (田村)</p> <p>k-yanai@jrckicn.ac.jp, (柳井)、y-kuraoka@jrckicn.ac.jp (倉岡)、o-abe@jrckicn.ac.jp (阿部)</p>
テキスト	特に指定しない

参考文献	<p>〈看護管理分野〉 井部俊子, 中西睦子監修: 看護管理学習テキスト第2版 2017年度刷①～⑧巻. 東京, 日本看護協会出版会, 2017. Hersey P.B., Blanchard H.K., and Johnson D.E. <i>Management of Organizational Behavior Utilizing Human Resources</i> (7th). 1996, 山本成二, 山本あづさ訳: 入門から応用へ行動科学の展開 (新版) 人的資源の活用. 東京, 生産性出版, 2000. 井部俊子編著: 実践家のリーダーシップー現場を変える, 看護が変わるー. 東京, ライフサポート社, 2009. Spencer M.L., & Spencer M. S. <i>Competence at work</i>. 1993, 梅津祐良, 成田攻, 横山哲夫訳: コンピテンシー・マネジメントの展開 [監訳版]. 東京, 生産性出版, 2011. 松尾 睦: 成長する管理職. 東京, 東洋経済新報社, 2013. 中原 淳: 経営学習論. 東京, 東京大学出版会, 2012. 勝原裕美子: 組織で生きるー管理と倫理のはざままでー. 東京, 医学書院, 2016. 鶴若麻理, 倉岡有美子編著: 看護管理と倫理の考えかた. 東京, 学研メディカル秀潤社, 2014.</p> <p>〈看護教育分野〉 Bastable, B.S.: <i>Nurse as Educator: Principles of Teaching and Learning for Nursing Practice</i> (3rd ed.) . Massachusetts, Jones and Bartlett Publishers, 2008. 杉森みど里・舟島なをみ: 看護教育学 (第6版). 東京, 医学書院, 2016. 舟島なをみ: 看護教育学研究. 発見・創造・証明の過程 (第3版). 東京, 医学書院, 2018. 舟島なをみ: 看護学教育における授業展開. 東京, 医学書院, 2013. 舟島なをみ監修: 看護実践・教育のための測定用具ファイルー開発過程から活用の実際まで (第3版9). 東京, 医学書院, 2015. 基盤看護特論 I で配布した文献リストの他、適宜、紹介する。</p> <p>〈看護倫理分野〉 下記以外は、授業内で紹介します。 小西恵美子: 看護倫理を考える言葉. 東京, 日本看護協会出版会, 2018. 浅井篤, 小西恵美子: 倫理的に考える医療の論点. 東京, 日本看護協会出版会, 2018. Fry, S.T.: <i>Ethics in Nursing Practice : A Guide to Ethical Decision Making, THIRD EDITION</i> 2008, 片田範子・山本あい子訳: 看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド. 東京, 日本看護協会出版会, 2010. 宮脇美保子: 看護実践のための倫理と責任. 東京, 中央法規, 2014. Chambliss, D. F.: <i>Beyond Caring : Hospitals, Nurses, and the Social Organization of Ethics</i>, 1996. 浅野祐子訳: ケアの向こう側. 看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾. 東京, 日本看護協会出版会, 2002. Thompson, J. E., Thompson, H. O: <i>Bioethical Decision making for nurses</i>, 1985, ケイコ・イマイ・キシ・竹内博明監修・監訳: 看護倫理のための意思決定 10 のステップ. 東京, 日本看護協会出版会, 2004.</p>
評価方法	授業への参画 (プレゼンテーション・討議: 40%)、課題レポート (60%)